

ノロウイルス胃腸炎 発症抑制効果

ラクトフェリン

この冬、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎が猛威を奮っており、ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

厚生労働省は昨年11月に、ノロウイルスが広く知られているが、年間約100万人から1500万人に感染し、そのうち重症化するのは約10万人に達すると推定されている。そのうち約7割は1歳未満の乳児で、過去10年間で最も多い水準だとされている。原因は、入浴が不十分や、調理をする人の手指汚染、調理器具の消毒などの感染経路が考えられている。



ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。

市販のサプリ、食品で効率良く予防

母乳に多く含まれる母乳には、生まれよりの赤ちゃんが生まれるために必要な免疫成分や、ウイルスなどの感染を防ぐための成分が含まれている。ラクトフェリンはその主要な成分の一つとして多く含まれている。特に母乳中にはラクトフェリンが非常に多く含まれており、赤ちゃんの感染防御に重要な役割を担っているのではないかと考えられている。

ラクトフェリンは赤血球に多く含まれている成分なので、母乳以外には、牛乳や母乳、母乳の成分を抽出した製品などがある。また、発酵食品であるヨーグルトやチーズ、乳酸菌飲料にもラクトフェリンが含まれている。こうした食品から、赤ちゃんに摂取させることも可能だ。

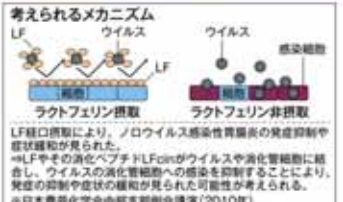
ラクトフェリンは、母乳に比べて、体外でも安定な成分であると考えられている。おなかに入っても壊れることなく多く含まれているが、人間の母乳よりも多く含まれている。

近年の研究において、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」に、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎の発症抑制や重症化の抑制に関する効果が期待できるとして注目を集めている。

そんな中、近年の研究において、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」に、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎の発症抑制や重症化の抑制に関する効果が期待できるとして注目を集めている。



ラクトフェリンの構造図 (E. N. Baker教授、R. Kidd博士提供)



ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。



対照群：非投与、16週、n=45
LF群：400mg/日を投与として、16週、n=46
※臨床ウイルス学会(2009年)

※p値 (p-value) は、偶然によってデータに差が生じる確率で、統計学的有意性を示す。p<0.01なら99%以上の確率で信頼できることを示す。



もりうち ひろき 長崎大学医学部、長崎大学大学院臨床医学総合研究科感染制御学分野教授 (長崎大学附属小児科長)

ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

ノロウイルスは感染力が強く、集団食中毒などを起しやすいため、この時期は特に注意が必要だ。その中で、母乳に多く含まれるタンパク質「ラクトフェリン」(LF)に、ノロウイルス胃腸炎の発症を抑制する効果が期待されていると注目を集めている。

今後の研究につながる一歩

今後の研究につながる一歩

防御作用、軽症化も

今後の研究につながる一歩